

## 『意欲的に取り組み、自ら追究する児童の育成』

～読む力を伸ばす指導の工夫・改善を通して～

### I 研究の内容

#### 1 研究の目標

国語学習において主体的な読みを定着させる手立てを工夫し、読書活動や言語環境を整備・充実させることによって、子どもたちの豊かな人間性を育む。

井尻小学校がめざす「豊かな人間性」とは…（めざす子ども像）

- § 自分から進んであいさつできる子ども
- § 読書に親しむ子ども
- § 自分の思いを、豊かで正しい言葉を使って表現できる子ども
- § 共感をもって、他者との心のふれあいが持てる子ども

#### 2 研究の具体的内容と方法

- 「読むこと」の基礎基本についての理論研究をする。
- 本校児童の「読むこと」や「読書」についての実態を把握する。
  - ・意識調査を実施し、一年間の変容を読み取る。
- 「主体的な読み」を定着させる国語科の授業を工夫・改善する。
  - ・指導を焦点化するために『1授業1目標1評価』をめざし、指導と評価の一体化を図る。
  - ・「説明文」において、文章を正しく読み取る手立てを工夫する。  
(読みのめあて、音読、キーワードへの着目、学習形態)
  - ・「文学作品」において、文章を豊かに読み取る手立てを工夫する。  
(音読、場面わけ、挿絵や写真・動作化によるイメージ化)
  - ・それぞれの「読み」を交流する(表現する)場を設け、読みを深め合う。
  - ・評価規準Cとされる児童(特別に支援が必要な児童)への手立てを考える。
- 読書活動を推進する。
  - ・「読書活動推進部」を設け、本が好きになる児童の育成を図る活動を行う。また、子どもたちの読書活動を紹介する。
- 子どもたちの言語環境を整える。
  - ・「言語環境整備部」を設け、子どもたちの言語を整える資料を掲示する。

＜読みの力をつけるための指導：共通理解＞

☆自分の読みを持たせる。

自分はこう考えるという自分の読みを持たせる。

☆証拠の言葉（根拠となる文や言葉）を提示させる。

自分の読みの証拠を挙げることで、句読点や一文一段落、倒置文、形容詞、接続詞など文章の性格に応じて、これらの叙述にこだわり意味を考え、解釈できるようになる。

☆書き込みながら読ませる。

証拠となる文にこだわるためにはその文や言葉に立ち止まることが必要である。線を引いたり、メモを書きこんだりする作業をしながら読ませる。

## II 成果と課題

### 1 研究の概要について

◇研究主題は今日的な課題であり、本校の児童の実態に合っていた。様々な手法での「読み」を職員が理解し、「読む力」を伸ばす指導の工夫・改善が図られた。

◇研究の中心に据えたのは「読む力」を伸ばす指導の工夫であるが、それだけでなく、子どもの主体的な取り組み・学習意欲を伸ばすことができた。研究成果を表現する力や他教科ひいては学校生活全体にひろげていきたい。

◇研究組織と計画は適切で、研究授業もバランスよく、落ち着いて取り組めた。

### 2 研究内容について

◇意識調査は一年の経過の中で変容を捉えられたので、学級の傾向がわかり、授業の改善に役立てることができた。

◆全体の分析だけでなく、個々の子どもについても分析する必要がある。

◇「1授業1目標1評価」で、目標を明確にすることで、「主体的な読み」につながった。

◇「説明文」において、多様な手立てが工夫され、確かな読みにせまることができた。

◇「文学作品」において、発達段階に応じた手立てが工夫され、想像を膨らませて豊かな読みにせまることができた。

◇評価規準 C とされる児童について、個に応じた手立てが工夫され、どの子ども読む楽しさを味わい、「わかる喜び」を与えられることで、学習意欲が高まった。

### 3 読書活動の活性化について

◇学期に一回の「読書週間」や専門家による「読み聞かせ」を行うことで、読書量が少ない子どもでも本に親しむことができた。

## III 成果と課題

- ・各学年国語科授業案
- ・国語に関する意識調査と変容

(研究主任 雨宮由縁)